



自社の森林資源を活用、社員による植樹や里山ワークなど実活動にこだわり、『非日常体験』を通じた教育プログラムを推進。実際に行う「植樹活動」は環境課題への直接的な関わりや地元関係者との協働作業を生み社員の成長機会として期待するもので、年に1回20名程度の規模で社員研修の一環として実施。

導入の経緯と決め手

管理が課題となっていた社有林を活用し、環境貢献につながる実活動を展開することとし、東広島市及び賀茂地方森林組合との3者による「東広島市森林づくりパートナー協定」を令和6年1月に締結。「ANAファシリティーズの森林づくり(ANAForest)」として、自社による森林づくり活動や他企業が行う森林づくり活動等へのフィールド提供を実施。協定に基づく自社活動の一環として、環境教育や心と体の健康づくりを目的に、社員研修として植樹体験や里山体験プログラムを行う。

取組内容とその効果

<実施地域：広島県東広島市>
役職員[1回あたり20名程度]が、地元森林組合の技術指導を受けながらコウヨウザンの植樹活動を実施。また、地域の新しい取組である「里山体験」を取り入れ、里道を歩きながら里山の現状に関する説明を聞いたり、樹木など植物を観察するプログラムを実施。社員同士の交流が促進され一体感の醸成に寄与するとともに、地域との関係づくり、森林・山村地域の現状や環境課題に対する理解向上につながった。



従業員の声

- 里道を歩きながら解説を受けることができ、森林への理解が深まった。
- 森林内で呼吸すると気持ちが良いことが分かった。
- 地元の方との交流を通じて環境への想いが伝わってきた。
- 森林を保有していることを実感し自分も環境課題に取り組みたいと思った。

役割分担と参加促進に向けた取組

森林資源の管理と利活用を担う「森づくり推進室」と、人事研修を担う「事業推進部」が連携し、社員研修として植樹プログラムを実施。令和7年度以降については事業推進部が新入社員研修として実施する方向で準備を進めている。森林づくりの技術指導や、現地山林での移動手配を賀茂地方森林組合、里山体験のプログラムを「生活デザイン・工学研究所」に依頼。

■プログラム構築：

企業と地元関係者で、教育プログラムを企画。
※東広島市森林づくりパートナー協定を活用

■導入形態：

参加必須の研修（1泊2日）

■対象者：

全社員を対象（新入社員+α）

■費用負担：

企業が全額負担

目的

- 環境教育
- 心と体の健康づくり
- 地域貢献・社会貢献・環境貢献
- 地域との関係づくり

結果（企業の声）

- 森林・山村地域の現状や環境課題に関する社員の理解が深まった。
- 社員同士の交流が促進され、一体感の醸成につながった。